

NEWS LETTER

Vol.16
2023.5月

トピックス 英国労働・年金担当大臣が全シ協を訪問し、江東区センターを視察されました

令和5年は、日本がG7の議長国を務めています。G7広島サミットが5月19日から21日の日程で広島で開催されます。

また、一年を通じて、全国各地で10を超える閣僚会合が開催されることになっており、その一つである「G7倉敷労働雇用大臣会合」が、4月22日から23日の日程で岡山県倉敷市で開催されました。

英国労働・年金担当大臣が全シ協を訪問

労働雇用大臣会合に出席のため日本を訪れた英国のメル・ストライド労働・年金担当大臣外4名の英国政府団が、4月20日、シルバー人材センターの事業内容について聴取するため全シ協を訪問され、金子順一全シ協会長からシルバー人材センターの組織、シルバー事業の目的や仕組み、就業内容、活動実績、今後の取組などの説明を受けました。

説明後、日本と英国における高齢者雇用・就業対策、その他センターへの入会動機、就業内容、民間・公共部門からの仕事の発注割合などに関して、活発な意見交換を行いました。

G7サミットとは

G7サミット(主要国首脳会議)とは、フランス、米国、英国、ドイツ、日本、イタリア、カナダ(議長国順)の7か国並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して、毎年開催される国際会議です。 [首相官邸ホームページ]



江東区シルバー人材センター東陽作業所を視察

全シ協での意見交換後、英国政府団は、江東区シルバー人材センター東陽作業所に移動し、職員から説明を受けるとともに、刃物研ぎや洋裁リフォーム、商品の袋詰・包装などに会員の皆さんが明るく生き生きと就業する様子を熱心に視察されました。

ストライド大臣は会員さんにも気さくに声をかけられていましたが、特に刃物研ぎの様子に興味深くご覧になっていました。

駐日英国大使館の公式Twitterにも紹介されました



ストライド労働相が、日本の高齢者雇用支援について学ぶために江東区のシルバー人材センターを視察。

高齢者の方々の働く姿を直接見て、その技術や仕事に対する姿勢に感銘を受けました。

[Translate Tweet](#)



英国議会下院の報告書で、シルバー人材センターのような組織の検討を提言

今回の来訪は、昨年10月の英国下院BEIS委員会所属議員団の大阪市センター訪問(ニュースレターVol.14(2023年1月号))の話を聞かれた大臣の強い希望とこのことであり、4月18日に公表された右の英国下院の報告書では、高齢者の就業機会を支援するため、日本のシルバー人材センターのような組織の検討が提言されています。

全シ協からのお知らせ

○「シルバー人材センターのための続・広報スキルアップ講座」が始まります！

ホームページを活用した広報戦略、SNSを活用した有効な情報発信に向けて、「月刊シルバー人材センター」7月号から連載します。ご期待ください。

House of Commons
Business, Energy and Industrial
Strategy Committee

Post-pandemic
economic growth: UK
labour markets

Tenth Report of Session 2022-23

Report, together with formal minutes relating to the report

Ordered by the House of Commons to be printed 18 April 2023

特集

全シ協「令和5年度事業計画」について

各シルバー人材センター、シルバー人材センター連合本部では、新しい年度のスタートに当たり、取り組むべき事項や目標数値などを盛り込んだ事業計画を策定していますが、全シ協においては、下記のようなセンターを取り巻く情勢等を踏まえて、センター、連合本部、全シ協が一体となって事業を推進していくための具体的な取組内容を「令和5年度事業計画」として取りまとめました。

センターに対する大きな期待

4月26日に国立社会保障・人口問題研究所から公表された日本の将来推計人口によれば、今後50年ほどで、総人口は約4千万人減少し、生産年齢人口（15～64歳）も約3千万人減少すると推計されています。

また、65歳以上人口は、令和25年にピークを迎えた後は一貫して減少に転じますが、総人口に占める割合（高齢化率）は、令和2年の28.6%から50年後には38.7%に上昇すると推計されています。

こうした人口減少、少子高齢化の進展に伴い、高齢者の一層の活躍が期待されており、センターに対する国、都道府県や市区町村、企業、さらには地域社会からの期待は一層大きくなっています。（図1参照）

会員数をコロナ前の水準に回復させる

センターに対する大きな期待に応えるためには、何といたっても「会員の拡大」が不可欠です。

全シ協では、平成30年度から令和6年度の7年間で計画期間とする「第2次会員100万人達成計画」を策定し、全国のセンター、連合本部において会員拡大を最重点課題として取り組んでいただいているところですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降会員数は下げ止まらない状況にあります。

このため、令和5年度も会員拡大を最重要課題として、高齢者人口の男女割合等からみて拡大の余地が大きい女性会員の拡大に重点的に取り組むとともに、企業退職（予定）者層への働きかけの強化、退会抑制などにより、当面、一日も早くコロナ前の水準（令和元年度数値）の会員数に回復させることを目標として、取り組むこととしています。（図2参照）

図2 会員数の推移

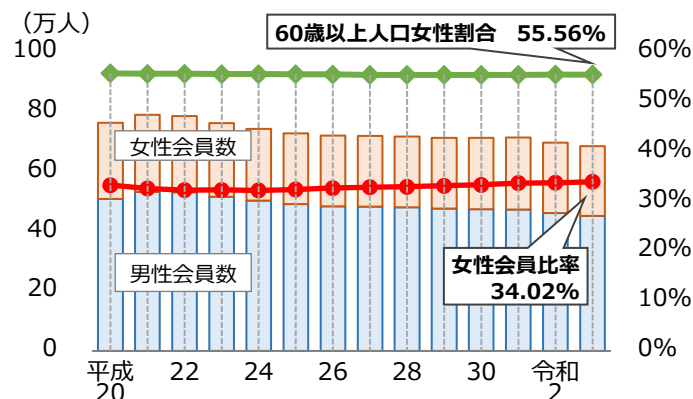
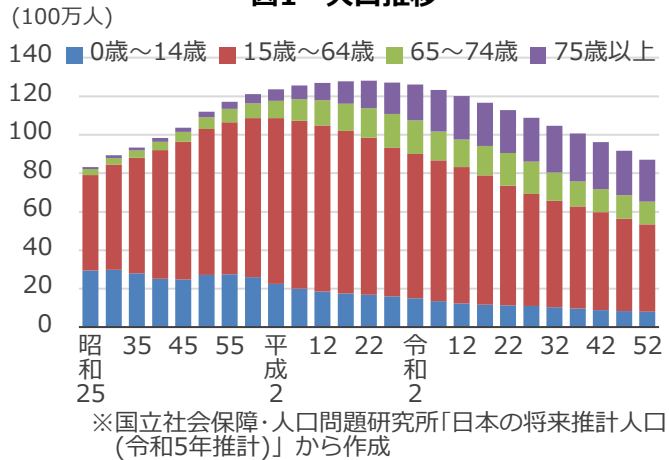


図1 人口推移



令和5年度の主な重点事項

下記の重点事項にも取り組みます。

▶ 80歳を超えても活躍できる就業環境の整備

センターは、地域の高齢者の方々が就業を通じて地域社会に貢献していただくとともに、高齢者の方々の生きがいや居場所づくりとしても重要な役割を担っていることから、独自事業などを活用して、元気なうちはいくつになっても働き続けることができる就業機会を創出する。

▶ シルバー事業のデジタル化

デジタル社会の到来を念頭に置いて、デジタル関連の就業機会の確保に加えて、スマホを活用した業務連絡やWeb入会システムの導入等デジタル技術を活用した業務の効率化、このための基盤整備として、会員のデジタルリテラシー（デジタル技術を理解し活用する能力）の向上に取り組む。

▶ 安全就業の推進

「安全・安心なシルバー事業」の確立を図ることは、シルバー事業遂行の根幹をなすもの。会員の高齢化、重篤事故の発生状況を踏まえて、組織を挙げて安全就業の徹底に向けた取り組みを強化する。特に、発注者や第三者に危害・損害等を与える損害賠償事故が多く発生していることから、その撲滅を図る。

具体的な取組については、全シ協HP「令和5年度事業計画」をご覧ください

https://zsjc.or.jp/kyokai/acv_pdf?id=32

